

日時: R 6 年 5 月 9 日(木) 時間: 13:00~14:00

出席者: 委員長、委員: 自治会会長、実習施設代表、保護者代表、同窓会代表代理
学校長、教務主任、専任教員 2 名

【議題】

学校長挨拶

今年度、開校 30 周年となる。入学した 1 年生は 30 期生であり、今年度、全学生が新カリキュラムで学ぶこととなります。18 歳人口減少により、入試倍率は 2.0 倍程度となっている。受験生確保のため、近隣の高校に向向き、入学説明会に参加しています。市立病院での看護体験参加者とのかわりを持たせていただいています。

1. 委員自己紹介

2. 教育理念、教育方針、中期目標

カリキュラムポリシーについて

- 1) 自ら問いを立てるということは、疑問をもち考えるということで、主体的に学ぶことである。本校ではグループワークやプレゼンテーションの形をとり、教育方法を工夫している。
- 2) 看護職者としての倫理観を 3 年間かけて育てる。
- 3) カリキュラムマップの真ん中に実習計画がある。これまでは 1 年生で基礎実習、2 年生後半から 3 年生にかけ実習が続くという組み立てだった。学びを発展させるために実習も全学年にわたって実施している。
- 4) 宝塚市を理解するカリキュラムであり、大学との連携教育も実施している。
- 5) これまでの小児、成人といった発達段階別ではなく、学生たちにわかりやすいと考え「健康段階別看護」を切り口として取り組んでいる。
- 6) 看護職があらゆる場で活躍する時代となり、1 年生の時から自分のキャリアについて考えられるよう、市立病院や施設から講師として来て下さる看護師、先輩らを見て自分のキャリアについて考える機会となっている。

長期目標 ビジョンは変更していない。本校の卒業生はしっかり教育されていると感じてもらえるように、教育を続けている。

中期目標について、次の 5 年を見据えての内容に見直した。

市内に優秀な看護師を供給することが課題。学生から地域に貢献するという活動に取り組んでいる。

市立病院、大学等と連携し、地域に還元していくことを目標と示している。

受益者負担の見直しとして、授業料を令和 6 年の入学生から月 1 万円増額した。

令和 6 年 4 月現在、学生は 119 名在籍している。

3. 令和 5 年度学校自己評価

本校職員が学校を自己評価した結果。概ね 2.5 以上の評価であるが、教職員の育成について昨年度より 1.9 (前年度 2.0) と減っている。広報・地域活動が 2.4 (前年度 2.8) と本校が目玉としている点が少ない。これまで旧カリキュラムと新カリキュラムが混在しており、年中実習に出なければならなかったことや、横断科目の始まりによって新しい科目を担当するなど大変な状況であったためと考えている。

広報・地域活動については、学生への投げかけをどうするか、検討が必要である。

甲子園大学は心理士や栄養に特化した大学。医療職育成に特化しているわけではないが、今後の連携教育の進め方も検討課題である。

今年度、新カリキュラムの完成年度であり、運営してみて、カリキュラム評価が必要である。

4. 令和 5 年度卒業生・在校生による学校評価

一昨年卒業した学生の評価(令和 5 年 6 月実施)で、3 を「普通」として評価してもらっている。

コロナ時代に学んだ学生であり、社会情勢に応じて感染管理を行っていたので、「危機管理」などの項目は高評価であったが、学習環境については逆に制約のある中での学校生活であったため、評価は下がったのではないかと考えている。

1、2 年生はバランスよい評価と考えるが、学習環境については卒業生同様制約があることへの評価であると考えている。

5. 令和 5 年度授業評価

3.5 以上の評価であり概ね満足していると考える。

専門基礎科目5-2 が 3.7 と少し低い状況である。この項目は授業内容を理解できたかという内容である。評価点の低さから授業内容を十分に理解することができていない学生の状況が判断できる。そのことから講師には教育方法の工夫、学生の反応など確認しながら授業をすすめてほしいと考えている。

6. 令和 6 年度教育方針・重点目標

宝塚市(地域)の取り組みに参加すること、自分で目標を持ち何を学びたいかを明確にし、学んでもらいたい。自他に感謝する～という倫理観の育成について、生命を尊ぶ仕事、自分以外の他者を大切にすることを学生の中に育てていきたい。学生が自己評価をできていない現状もある。自分自身が他者にどんな発信をしているかを振り返ることも力を入れている。

活動方針:全学年新カリキュラムの完成。学生の充実した学びのために教員間での検討課題も多い。

- 1) 臨床判断能力については新カリの柱と位置づけ教育している。
- 2) 宝塚市でのボランティア活動は宝塚学Ⅰ(1年生、宝塚市を知る。観光文化などを自ら調べる)で阪神間5校での発表をする。宝塚学Ⅱ(3年生、健康センターとのコラボ、市民の健康課題に対し予防的取り組みができないかということで歯科口腔の予防について、生活習慣病予防、子宮頸がん検診のススメなどをテーマに取り組んでいるところである)も始まっている。宝塚市への就職率は40%以上を達成している。今後も全職員で学生を支援していきたい。
- 3) 教育方法の工夫、成人は自立した存在と授業した。与えられるものではなく自ら学ぶことが重要と伝えた。それらを大切にしながら教育にあたっていく。
- 4) 国家試験は17年連続100%合格を続けている。引き続き努力していく。
- 5) 適時適切な学生面接については、学生と教員の判断基準は違うことから、学生が大切にしている思考や価値を尊重しながら、学生が相談しやすい環境を作りたい。
- 6) 教員の教育実践能力向上については、新カリ・旧カリ混在の状況や新カリが安定した教育内容になっていないことで、目の前の課題が多い状況。少しでも研修などに出向ける環境作りをしていくことや、学内に講師を招いての研修を企画する予定。

7. 学校評価委員の皆様からの質問・ご意見

(委員) 卒後10年、自分達の学年で問題があったと感じていない。のびのびと学ばせていただいていたと感じています。

(委員) カリキュラム移行やコロナの中、ご尽力いただいたことに感謝します。倫理観の育成については難しい。実習指導を学生だけに聞かれるよう調整していただいていることにも感謝します。

(委員) 時代の流れに合わせてカリキュラムなど変更しておられることに感心している。宝塚について学んでいたこともありがたいと感じている。地域にボランティアで学生さんに来てもらったら、何かしてもらわないと・・・と思い、『宝塚第3病院』といって学生さんにも白衣を着てもらい、簡単な問診や高齢者の脈をとるということで、腕に触れていただいたりした。昨年3回参加していただいて、『少年時代』という歌を歌ってもらったら、参加した高齢者が大変喜ばれていた。どうして看護師を目指した?と聞くと、多くの学生が「母が介護や看護の仕事をしている。その背中をみて自分もなりたいと思った」と。親御さんが子どもさんにいい姿を見せてらっしゃるのだと感じた。学校の教育のたまものだと思う。

(委員) 数年前から学校と病院との連携、高校生から1人前の看護師に育てる、看護師として、女性としての成長に継続してかかわれることをこれからも深めていきたい。教職員の育成という点についても交流、一緒に学ぶ機会なども、コロナがあってできなかったが、是非進めていきたいと考えている。

(委員長) 教育において教育する立場の人は「自身のしていることが正しいと思うことが多い」という側面があるので、①自身が自身を見直す場、②他者の目(今回の場合地域の方、病院の方、保護者の方、同窓会の方)の二つが大切かと思えます。会議では様々な振り返りがあり、立場の違う方からの意見が聞けてよい機会であったと思えます。